

製品名: FoxC1/2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab11076**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	57kDa

抗原情報

遺伝子名	FOXC1/FOXC2
別名	FOXC1; FKHL7; FREAC3; Forkhead box protein C1; Forkhead-related protein FKHL7; Forkhead-related transcription factor 3; FREAC-3; FOXC2; FKHL14; MFH1; Forkhead box protein C2; Forkhead-related protein FKHL14; Mesenchyme fork head protein 1;
遺伝子 ID	2296/2303
SwissProt ID	Q12948/Q99958
免疫原	抗血清はヒト FOXC1/2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 151-200

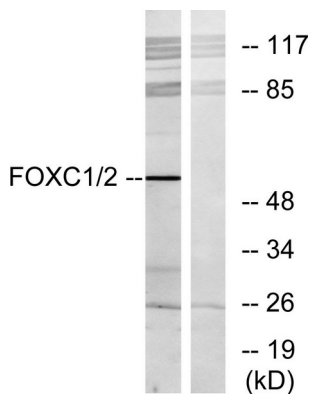
背景

この遺伝子は、明確な DNA 結合フォークヘッドドメインを特徴とするフォークヘッド転写因子ファミリーに属します。この遺伝子の具体的な機能はまだ解明されていませんが、胚および眼の発達の調節に関与することが示されています。この遺伝子の変異は、原発性先天性緑内障、常染色体優性虹彩形成異常、アクセンフェルト・リーガー異常など、様々な緑内障の表現型を引き起こします。[RefSeq 提供、2008 年 7 月]疾患: FOXC1 の欠陥は、アクセンフェルト・リーガー症候群 (ARS) [MIM:601090]の原因です。アクセンフェルト症候群またはアクセンフェルト異常としても知られています。後角膜胎児性色素斑、顕著なシュワルベ線、およびシュワルベ線への虹彩の癒着が特徴です。その他の特徴としては、両眼間開離 (眼の間隔が広い)、頬骨の形成不全、先天性歯欠損、精神遅滞などが挙げられます。歯の異常を伴う場合、この疾患はリーガー症候群と呼ばれます。緑内障は進行性の失明疾患で、アクセンフェルト・リーガー奇形患者の約半数に発症します。疾患: FOXC1 遺伝子の欠陥はピーターズ奇形[MIM:604229]の原因です。ピーターズ奇形は、中心角膜白斑、後角膜実質およびデスメ膜の欠損、および後角膜中央部への虹彩および水晶体の付着の程度の変動で構成されます。疾患: FOXC1 遺伝子の欠陥は虹彩形成不全症 (IGDA) [MIM:601631]の原因です。IGDA は、虹彩低形成、隅角形成不全、および若年性緑内障を特徴とする常染色体優性表現型です。機能:FREAC-3 と FREAC-4 がそれぞれの相同部位に結合すると、DNA が 80 ~ 90 度の角度で曲がります。類似性:1 つのフォークヘッド DNA 結合ドメインを含みます。サブユニット:モノマー。組織特異性:検査したすべての組織および細胞株で発現します。、

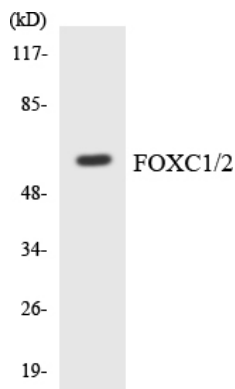
研究分野

-

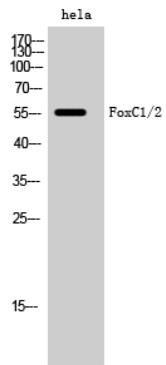
画像データ



FOXC1/2 抗体を用いた RAW264.7 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



FOXC1/2 抗体を使用した Jurkat 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



1: 2000 に希釈した FoxC1/2 ポリクローナル抗体を使用した HeLa 細胞のウエスタンブロット分析。